

**公益社団法人小豆島青年会議所**

**ローカル委員会概要**

	副理事長	東口 和生	委員長	三好 龍介	副委員長	須藤 奈美
発足に至る背景並びに現状分析	人の考え方や価値観の多様化、そして日本国内では2008年頃をピークに人口の減少や高齢化が進んでいます。小豆島においては約60年前から人口の減少が同様に起こっており、働き手の不足によって組織の運営方法など様々なことが変化しています。外部からの人材の確保や新しい技術の導入の方法など課題はたくさんあります。しかしそれだけではなくその地域に住む人々の地域に対しての愛着を高めることも重要なことの一つです。地域への愛着が持てないことは人がその土地を離れてしまう要因の一つになり得えます。そして人口が減ることによってまちづくりや環境保全、地域防災などのコミュニティ維持も難しくなる可能性が高まります。それらを防ぐ為にはやはりローカルをより一層魅力的なものにし、人口の減少を緩和することが必要であり、地域を見つめなおす機会を設けることや地域への貢献をすることでローカルへのエンゲージメントの向上延いては小豆島の発展に繋がっていくと考えます。					
事業内容	1) ビジネススキルアップ研修事業 2) ローカル事業					
対象者(動員目標数)	1) (公社)小豆島青年会議所正会員27名 2) 10~40代30名程度 (公社)小豆島青年会議所正会員27名					
手法(理由)	1) ビジネススキルアップによって自身の価値を高めるため 2) ローカルへのエンゲージメントを高めるため					
手法(目的)	1) 研修を通じて個人及び組織のスキルアップ 2) ローカルのことを学び自身の知識とする					
手法(概要)	1) 講師を招いての講演を実施 2) 講師を招いてのワークショップ、研修を実施					
パートナー	1) 講師 2) 小豆島町・土庄町・講師					
効果	1) 個人、組織のスキルアップの術を持ち帰り仕事やJC活動に応用する 2) ローカルへのエンゲージメントが高まることで地域が豊かになる					

**ローカル委員会**

<事業計画>

1. 研修事業の実施(4月)
2. ローカル事業の実施(7月)
3. PR(potential realize)事業の実施
4. 例会の設営(5月、10月)
5. 総会の設営(8月)
6. その他

<事業フレーム>

運動・事業名	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1. 研修事業の実施(4月)	企画・立案			審議	PR	実施	検証	報告・決算							引継ぎ
	引継ぎ	討議	協議												
2. ローカル事業の実施(7月)	引継ぎ	企画・立案			企画・立案		審議	PR	実施	検証	報告・決算			引継ぎ	
		討議	協議												
3. PR(potential realize)事業の実施	通年														
4. 例会の設営(5月、10月)	引継ぎ						設営						設営	引継ぎ	
5. 総会の設営(8月)	引継ぎ									設営			引継ぎ		
6. その他	通年														